

まえがき

この本を手にとつていただきありがとうございます。

あなたが女性ならば、未婚、既婚、年齢を問わず、子どもを産むということについて、一度は考えたことがあると思います。

今の時代は、いわゆるイクメンも多いので、子の誕生や育児を真剣に考える男性も増えているのかもしれないですね、そんな方にも読んでいただけたらうれしいです。

女性なら漠然と「出産痛そう」とか、または子どもが大好きだから、早く欲しいと願っているかもしれません。でも冷静に考えちゃう人は、「無事五体満足な子を産めるのか」「障害児が生まれるリスクとその責任を一生持てるのか」とか、「子どもができたら遊ぶなくなつて自分を犠牲にしなくちゃいけないのだろうか」「お金はどのくらいかかるのだろうか」などなど、現実的なリスクばかり考えてしまうかもしれません。

私は、といえば最初の結婚で流産し、でもそのときは流産だとわからなかったので、子どもを授かった実感はありませんでした。再婚する前、もう結婚しないだろうと思つていたので子どものことなど考

えてもいませんでした。それに私はそもそも子どもが嫌いでした。

自分の子ども時代が悲惨だったせいで、子どもに対するいろいろな偏見がありました。

再婚することは、年齢的にいつても子どもを作るかどうか真剣に考えなければならぬ、そういう時期だったといえます。

出産前は、「こんな私に育児がちゃんとできるのか」そんなことも考えました。悩んでいるときに、「みんながやっていることだから大丈夫よ」とか言われたときは、「みんなはうまくできたかもしれないけど、私はみんなと同じかどうかわからないよ。この人はなぜ私とみんなが同じだと言いつけるのだろうか？」とわけもなく腹が立っていました。それだけナーバスになっていたのだと思います。

まあ「みんなが〜」って言われても、それはあまり励ましにはならない言葉だと、今でも思っています。

この本で、そんな子ども嫌いな私が子どもを産むことを決断して、子育てを経験したその結果気づいた、実は子どもを持つって本当に素晴らしいこと、子育ては大変なことばかりじゃないこと、何も恐れないで大丈夫这件事情、そして私が経験した子育てで大切にしたいこともお伝えできたらいいなと思います。

いわば私のチャレンジの実録です。正確には、まだ続いています。

お母さんになって、育児をしてみても、楽しいこともたくさんありますが、どうしていいかわからな

くて思わず「お母さん辞めたい」と涙したこともありました。それをどう乗り越えたのか、そして私が「わかった」ことを、書きました。

この本を男女問わず、今子育て中の人、これから出産する人に贈ります。

ここに書いた何かで、誰かの背中を押すことができたり、何かの参考になつてくれたりしたらとてもうれしいです。